

Daily Mail Historical Archive 1896-2016

楊 スヒョン（資料管理課）

◆はじめに

図書館では、例年、教員・図書館員を対象に全学利用を前提とした電子媒体資料の購入希望アンケートを実施している。本稿では、2021年度実施のアンケートに基づき購入したデータベース“Daily Mail Historical Archive, 1896-2016”について紹介する。

◆概要と使い方

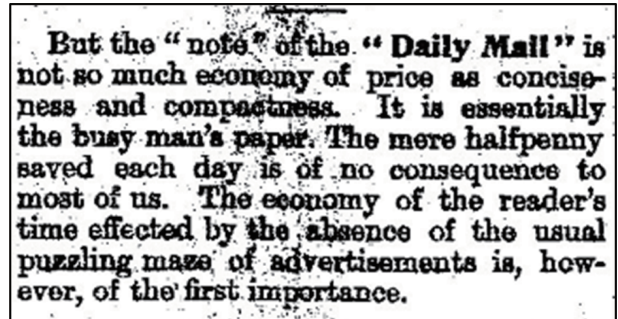
本データベースは、イギリスで最も読まれている大衆紙の1つ Daily Mail の創刊号から 2016 年までの 120 年間に渡る全紙面をデジタル化したアーカイブである。号数 50,262、ページ数 121 万、記事数 760 万にのぼり、1923～1931 年に大西洋横断客船上でのみ発行された『Atlantic Edition』も併せて収録している。記事全文、記事タイトル、著者名、セクション、記事種別、年代による検索機能を持っており、Gale の統合プラットフォーム Gale Primary Sources で横断検索もできることから、他紙との比較も可能となっている。



Daily Mail のプラットフォーム。図版、写真、広告なども含めすべてデジタル化している。

◆忙しい人のための新聞 Daily Mail

19 世紀後半は、大衆目線に重きを置くジャーナリズムが台頭してきた時代であった。それまで、一部の知識層に向けた格式ばった言葉で政治や経済に焦点を置いていた伝統的な新聞を、大衆目線の読み物ヘシフトチェンジし、Daily Mail を創刊したのがノースクリフ卿である。Daily Mail は、中流階級や労働者階層といった忙しい読者のために記事の見出しを大きくして、簡潔な文章を使用した。ノースクリフ卿自身が筆をとり、編集方針が“Conciseness and Compactness”（簡潔さ）であることを第一の理念とすることを強調した記事も残っている。最初の 1 年間で 1 日の発行部数は 16 万部に達しており、現代もその発行部数は約 150 万部と、イギリスを代表する大衆紙として Daily Mail は定着している。



創刊号の“The Explanation”に掲載された編集方針。半ペニーを節約するよりも Daily Mail から有用な情報を得るほうが経済的に有益と読者に伝えている。



1906 年 4 月 15 日に刊行された記事の 1 つ。一目で内容が分かるように記事の見出しを大きく表示している。Daily Mail 創設 100 年の節目を迎え、Daily Mail 創設者のノースクリフ卿とその弟の 1 人ロザミア卿について見開き 1 ページにわたって特集を組んでいる。

◆第一次世界大戦と Daily Mail

第一次世界大戦が勃発する前からドイツの脅威を訴え、ドイツを上回る戦艦の建造を主張していた本紙は、大戦中は前線から兵士の書簡を集め「Soldiers' Friend」（兵士の友）というコラムを設け、様々な情報の提供や激励を行ない（KINONLINE, 2013 年, p.4）^{*1}、イギリス海峡を越えて大陸で戦う兵士との一体感を高めた。

1915 年には、当時、国民に人気のあったキッチナー陸軍大臣が、「使い物にならない弾薬を供給している」（KINONLINE, 2013 年, p.4）^{*2} ことを暴き、遂には、当時の首相であったアスキス政権を退陣に追い込んだ。その後、新しく誕生したロイド・ジョージ政権で、ノースクリフ卿は政府高官に就任した。

本紙は、第一次世界大戦開戦前から開戦後までの新聞を収録しており、ジャーナリズムの観点から第一次世界大戦を研究する際の貴重な資料でもある。



1915年5月21日に「砲弾の危機：キッチナー卿の重大な過失」という社説をノースクリフ卿自身が書いて掲載した。この追及に当時の自由党内閣は崩壊した。



1915年1月29日の新聞にドイツの戦艦ブリュッヒャーが沈没している時の写真を掲載。

◆女性読者を重要視した Daily Mail

日刊紙は男性が読むものとされていた時代の中で、Daily Mail は当時の女性を読者に取り込む役割も果たした。ノースクリフ卿は Daily Mail の創刊号から“Women’s Realm”（女性の領域）というコラムで夕飯のレシピを掲載し、女性の関心を引いた。さらに、1968年には“femail”と名付けた特集欄を新設し、ファッションを中心とした多様な情報をイギリスの女性達に送った。

また、第一次世界大戦の頃、紙不足により女性向けの記事を掲載できない分、女性向けの広告戦略に力を入れ、継続して女性の読者を重要視した。広告をもとにした展示会“Ideal Home Exhibition”（2009年まで“Ideal Home Show”）も開催され、広告業者と消費者の仲介役として新聞の新たな価値を見出した。独自の広告戦略を展開した本紙は、広告研究のユニークな資料としても価値が高い。



初号では編集者の体験を混せて友人・知人のおもてなし方法を紹介している。

◆おわりに

今回紹介したデータベース以外にも本学では多数の新聞データベースを契約している。紙媒体やマイクロ資料では実現できなかった全文検索を可能にしたデジタルアーカイブは、より多くの角度から検索を行うことができる。是非とも、教育・研究活動に多いに活用していただきたい。

参考文献

*1、*2

KINONLINE vol.34 no.4 (2013)

20 世紀大衆ジャーナリズムのパイオニア「デイリー・メール」のウェブ版 Daily Mail Historical Archive 1896-2004

https://www.kinokuniya.co.jp/03f/kinoline/1304_01.pdf
(2022 年 8 月 9 日最終閲覧)

Williams, K. (1977). The english newspaper illustrated history to 1900/ keith williams. London: Springwood Books.

イギリス中央情報局. (1964). イギリスの新聞 / 英国政府中央情報局 編集. 東京: 駐日英国大使館広報部.

日本新聞年鑑 = Japanese newspaper annual. (2017).

磯部 佑一郎. (1974). イギリス新聞物語 / 磯部佑一郎 著. 東京: ジャパン・タイムズ.

磯部 佑一郎. (1984). イギリス新聞史 / 磯部佑一郎著. 東京: ジャパンタイムズ.

Adrian Bingham(2013). “The Paper that Foretold the War”: The Daily Mail and the First World War.

<https://www.gale.com/jp/essays/adrian-bingham-daily-mail-first-world-war> (2022 年 8 月 2 日最終閲覧)